

昨年来、部活動のあり方について新聞等でも多く取り上げられています。

その内容としては、「少子化の進行」、「指導者の不足」、「教員の多忙」等により、これまでのように学校での部活動を続けていくことが困難であるため、国の方針として部活動の“地域への移行”を進めていくというものです。しかし、現場では、部活動を指導する外部の指導者が見つからない、委託費用の捻出が難しい、といった問題を抱えています。

実際に、足利市においても保護者や市議会から部活動に関する意見や要望がとて多く寄せられています。

コロナ禍ということで、ある中学校では他の中学校に比べて部活動の時間を短くしたり、大会の決勝戦を棄権させたりしたそうです。これに対して生徒からは、他の中学校と同じくらいの練習時間が欲しいと校長に直訴したそうで、中には涙ながらに訴えた生徒もいたとのことでした。一度きりの貴重な中学校生活をいかに悔いなく有意義に過ごせるか、とても難しい問題だと感じました。

子どもは部活動がしたい。我々としては子どもの希望を叶えてあげたい。教職員のワークライフバランスも重要である。これらはみんなに共通している想いではないでしょうか。

部活動を存続するための方策として、例えば、他の中学校と合同で活動する、外部指導員を募集する、等の方法が進められています。さらに全国では、オンラインを活用した指導、複数の部活動への登録など、改革を進める動きもあります。

そして、こういった取り組みを進める上では、各学校の最終判断があるにしても、学校によって対応にバラつきがないように、足利市教育委員会として市全体の基本的な方針・原則を示すべきであると思います。

足利市教育委員会では「足利市部活動指導員・外部指導者登録バンク」を創設し、指導者の発掘と募集に力を入れ始めました。多くの皆様に、子どもたちのために力を貸していただけますよう、よろしくお願いいたします。